

進む企業統廃合の中で基幹系システムの再構築を支援するERPソリューション

企業統廃合などに伴う経営戦略見直しのため、各企業では基幹系システムの再構築に取り組んでいます。ERP(Enterprise Resource Planning)も重要な役割を担っており、当社ではお客様の経営効率化推進のため、EBS(E-Business Suite)というオラクル社製ERPパッケージにより会計システム再構築などの開発を行っています。現在、多くのお客様のニーズにスピーディかつきめ細かく応えていくため、より上流まで含めた作業で対応すべく人材育成と共にソリューションの拡張を図っています。

いまERP市場では何が起きているか

ERP関連の市場では、お客様の規模の大、中、小により、各メーカーが戦略的に住み分けされた形で製品が提供されています。業種的には、製造、流通、運輸、金融など、また、業務として、会計、製造、販売、物流などがあり、基本的にはどの業種、業務にも対応できるように幅広い製品群が存在しています。

海外の大企業向け市場は、SAPとEBSが圧倒的なシェアを占め、中小企業向け市場では、10社以上が得意分野を活かし混戦となっています。一方、国内は、EBSを含めた10社程度を合わせると市場全体の7割程度を占めて、混戦となっています。

当社の主力とするOracleEBS市場のトレンドは、SOA(Service Oriented Architecture)やSaaS(Software as a Service)などに代表される既存システムとの柔軟性や拡張性の強化、ダッシュボード機能など、ERPのデータを使って経営層への見える化の支援が大きな流れとなっています。

ERPで実現する機能とは

当社では、2000年ごろから数あるERPパッケージのうち、お客様のニーズに応えていくために、EBS(当時はAPPS)に注力してきました。

EBSの代表的な機能は、基本機能(会

計、人事、受発注、組立生産、プロセス生産、プロジェクト)系、SCM(Supply Chain Management)系、CRM(Customer Relationship Management)系、管理会計系などに分類され、それぞれモジュールと呼ばれる業務毎の機能を提供しています。その中で当社は、以下のようなモジュールを中心にお客様にシステムを提供しています。

全工程：一般会計(GL)、売掛管理(AR)、買掛管理(AP)

製造工程以降：受注管理(OM)、在庫管理(INV)、固定資産(FA)、購買管理(PO)、部品表管理(BOM)、生産計画(MRP)、供給計画(ASCP)、工程管理(WIP)、リリース管理(PLM)

GL: General Ledger、AR: Account Receivables、AP: Account Payables、OM: Order Management、INV: Inventory、FA: Fixed Assets、PO: Oracle Purchasing、BOM: BillsOfMaterials、MRP: Material Requirement Planning、ASCP: Advanced Supply Chain Planning、WIP: Work In Process、

PLM: Product Lifecycle Management

当社の主な導入実績は、様々な業種のお客様に及んでいます(表-1)。

ERPソリューションはパートナー企業とのアライアンスでその効果がさらに向上

当社では、パートナー企業(コンサル企業など)とのアライアンスによって、体制一本化によるスムーズな導入と、リソースの有効活用に取り組んでいます。当社及びパートナー企業はそれぞれの役割分担を明確にさせ、かつお客様に安心いただけるサービスの提供を行っています。

当社のパートナー企業との協業は、図-1のようにお客様に対してすべての要求に応えられる関係が築けるほか、そこから培ったノウハウを蓄積し、早い段階で次のシステム開発へと循環して活かすことができると考えています。

EBS開発のビジネスは、日本では既存ベンダのシェアを取り合う状況となっており、競争はより激しさを増しています。今後一層コストパフォーマンスが求められるた

No	システム名	システム概要	対応モジュール
1	放送業向け会計システム	OracleEBSを利用した会計システム	AP, AR, GL
2	百貨店向け会計システム	OracleEBSを利用した会計システム	AP, AR, GL
3	製造業向け基幹システム	OracleEBSを利用した基幹システム	AP, AR, GL
4	製造業向け新パーツ供給システム	OracleEBSを利用した新パーツ供給システムの製造	OM, PO, INV
5	製造業向け部品管理システム	OracleEBSを利用した部品管理システムの製造	OM, PO, INV
6	カタログ販売会社向け会計システム	OracleEBSを利用した会計システム	AP, AR, GL
7	アパレル業向け会計システム	OracleAPPSからEBSへのバージョンアップ	GL
8	OA機器販売向け会計システム1	OracleEBSを利用した会計システム	AP, AR
9	音楽業界向け会計システム	OracleEBSを利用した会計システム	AP, AR, GL, FA
10	食品メーカー向け会計システム	OracleEBSを利用した会計システム	AP, AR, GL
11	金融業向け会計システム1	OracleEBSを利用した会計システム	AP, AR, GL
12	海運業向け会計システム1	OracleEBSを利用した会計システム	AP, AR, GL
13	海運業向け会計システム2	OracleEBSを利用した会計システム	AP
14	コンビニエンスストア向け基幹システム	OracleEBSを利用した基幹システム	AP, AR, GL
15	大手スーパー向け基幹システム	OracleEBSを利用した基幹システム(食品、衣料品など)	AP, AR, GL, FA

表-1 当社の主な導入実績

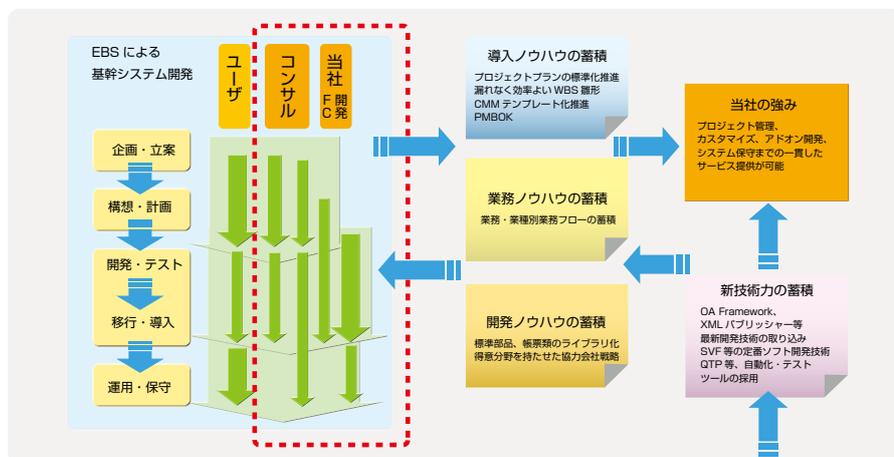


図-1 Oracle E-Business Suiteへの取り組み紹介

め、役割や住み分けを見直したり、低コスト運用の取り組みが必要となります。

サービスのレベルアップを支える教育体制

EBSを導入されるお客様へのサービス品質を向上させるには、業務ノウハウと実績のある導入経験、そして、何よりEBSの知識が欠かせません。

現在、当社では、そのようなニーズに応じていくために、2007年度から2009年度までの3年間で延べ100名のEBS技術者育成を目標として教育に取り組んでいます。

EBSのお客様の膨大な情報元からシステムの導入に必要な情報をきめ細かくピンポイントで引き出し、スピーディな判断をすることが求められます。それに答える

には、システムに対するニーズをより正確に把握し、これをERPとして最適化する業務ノウハウを持つ人材および、システム化を実現するためのEBSの知識や開発経験のあるファンクションコンサル(FC)と呼ばれる人材が求められます。当社は、このFC候補となりうる人材の育成を強化しています。

FCとは、一言でいえば、EBSを円滑に導入するためのエンジニアです。主に以下のようなシーンで活躍し、EBSを導入する上でユーザとコミュニケーションができ、EBSの専門分野に精通しているエンジニアのことをいいます。

- ①要件定義フェーズ
 - ・CRP(ConferenceRoomPilot)及びセットアップ定義書の作成、環境構築
- ②設計フェーズ
 - ・EBS標準機能の調査、EBS標準テーブルの調査
- ③統合テストフェーズ
 - ・テストシナリオの作成、テスト実施
- ④受入テスト、保守フェーズ
 - ・テストデータ作成支援
 - ・EBS標準機能及びアドオン機能のQ&A

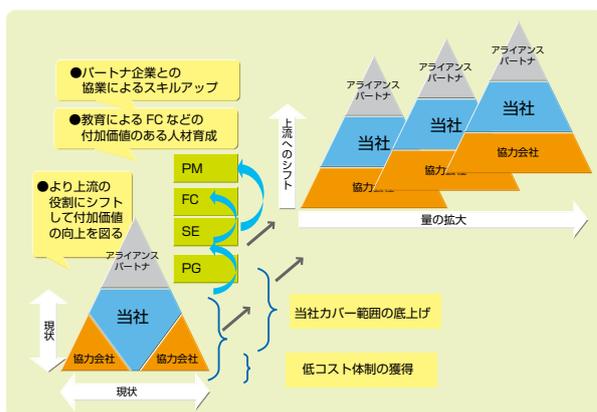


図-2 より上流の役割と拡大を目指したフォーメーション

プロジェクトマネージャ(PM)の配下にFC、システムエンジニア(SE)、プログラマ(PG)を配置してシステムの開発が行われます。海外リソースの活用など協力会社による低コスト化を目指し、当社として、より付加価値の高いFC、PMの育成を強化することで、サービスの質や業績の向上を目指しています(図-2)。

ERPビジネスの今後めざすところ

いま日本の企業では、上場企業に対するJ-SOXの本決算への適用が3月からと間近に迫り、内部統制の重要性がますます高まっています。

また、生き残りをかけて企業の統廃合が一層盛んに行われており、外資系企業と日本企業の統合も少なくありません。ERPシステムの分野は、まさにこれらの企業の基幹を支える仕組みであり、統廃合とグローバル化の中心的仕組みと言えます。最近、当社よりEBSを導入されたお客様の声では、経理部門のシェアードサービス化や、業務フローの見直しに伴う業務工数の削減、内部統制に関する諸問題の対応策などでEBSに対する高い評価があります。

当社は、得意とするEBS会計系の仕組みにより、今、「お客様のこうした要求をしっかりと支えていかなければならない」という責任とやりがいを持って日々対応しています。ERPメーカーでは、現在、BIツールの分野に特化し、管理会計、経営戦略的なニーズの充実を図っています。例えば、SAP & BO、ORACLE & Hyperionといった仕組みがすでに出来上がっています。当社は開発ベンダとして、これらを活用できる技術の習得を行い更なる拡大を目指しています。

(第三SIソリューション事業部 大溢 守)